UDS JOURNAL
VOL.3

Children and Community

特集「まち × 子ども」

UDS

www.uds-net.co.jp

UDS JOURNAL
VOL.3

Contents

01- 07	Children and Community	特集「まち × 子ども」
08- 09	Staff Interview	UDSママ社員　「まち」と「子ども」と「働く」
10- 11	Hotel Project	ホテル・アンドルームス大阪本町 / ホテルグレイスリー京都三条 南館
12	From Okinawa	はいさい沖縄UDS
13	From China	Hello from 誉都思
14-15	UDS News	UDS New Office / Inside UDS
16- 17	Staff Voice	Message from UDS Acters

発行：UDS株式会社
150-0001 東京都渋谷区神宮前 1-19-19　2F
03-5413-3941
info@uds-net.co.jp

Children and Community

特集「まち × 子ども」

「まち」の未来を考えることはそこに住む人の未来を考えること。
子どもについて考えること。

海老名の未来は子どもの未来 - RICOH Future House

コサイエ
LOUNGE & LAB

ランドセルを背負って駆け込んでくる子どもたちを「おかえりー」の声が迎えます。神奈川県・海老名市にある「コサイエ」の毎日の光景です。

「地域の人が集い未来のまちづくりを担う場所」として2015年8月に海老名にオープンした「RICOH Future House」。コサイエはこの3階にある子どもたちの学びの場です。平日はアフタースクール「コサイエラウンジ」として、土日は科学教室「コサイエラボ」として運営されています。

UDSが企画・設計・運営を手がけており、総勢20人のUDSスタッフが日々子どもたちを迎えています。

「コサイエは“未来のツクリテを育てる”ことを目指した場です。“ツクリテ”にはもちろん科学者や技術者という意味もありますが、子どもたちが自分の未来を自分自身によってつくっていけるように、という想いも込めています」（企画担当 事業企画部 金塚雄太 ）

「コサイエラウウンジでは放課後の単なる“お預かり”ではなく“学び”につながる日々の過ごし方を考えています。週末の小、中学生向けの科学教室コサイエラウンジとも合わせて、子どもたちが自分の“好き”を見つけて、それを深めていける場になることを目指しています」（コーディネイター 山崎未玖）

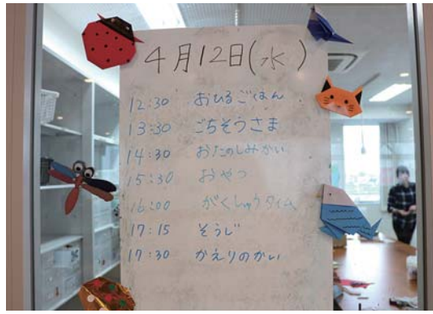
コサイエラウンジのホワイトボードには毎日その日のスケジュールが書かれています。中にはもちろん「学習」の時間も。

「学習の時間は設けていますが、その時間に何をやるかは自分で決めます。宿題や、読書をする子どももいますし、レゴをやる子どももいます。子どもたちの自主性、主体性を磨いていきたいので遊びのシーンでも、スタッフ側が率先して手伝いをすることは控えています。行動の選択肢を出して、子どもが自分で選択するような関わり方を意識しています」（コーディネイター 泉修）

現在2年目を迎え今では利用者としている登録している子どもは200名近くに上ります。2016年の秋には地域の人を招いて「コサイエ縁日」を開催しました。

「商品の金額設定から仕入れ、集客、販売まで全部子どもたちでやったとても大変なイベントだったのですが、当日は450名の地域のお客さんに来ていただき、目標を超える来客と売上に子どもたちも大喜びでした。子どもたちが将来仕事について考える時に、ふと思い出してくれるような体験になったなら嬉しいです」（コーディネイター　金子咲貴）

「子ども達に求められる力やスキルは、これまでの価値観と大きく変化しています。私たちはコサイエで子ども達が多様な世界に触れ、色々な人と関わり、変化し続けることができる場と機会を提供したいと考えています。近隣に住まれている方との触れあいの場をさらに増やして、コサイエをきっかけとしたまちのコミュニティづくりにも積極的に取り組んでいきたいです」（マネージャー 三上浩紀）



みどりと子ども -
練馬区立こどもの森

nerima-kodomonomori.com

両手両足を泥んこにして走り回る男の子。真剣な眼差しでのこぎりで木を切る男の子。泥の池で嬉しそうに水あそびをする女の子。
子どもたちの自由で伸びやかな遊びと笑顔で溢れているここ「練馬区立こどもの森」は、練馬区が2015年4月に開園した誰でも無料で自由に遊べる公園です。

練馬区の8割は民有地のみどり。このみどりを守っていくため、地域の子どもに小さな頃から自然に触れてみどりを好きになってもらうことを願って誕生しました。UDS、特定非営利活動法人あそびっこネットワーク 、株式会社ジェイ・ティ・エム、日建管財株式会社４社の共同事業体「JV PLAY TANK」が練馬区から管理業務を受託して運営しています。

「『自然』『冒険』『交流』がコンセプトのこどもの森は“子どもが自然の中で思いっきり遊んで冒険する場所”。子どもたちが自分たちの発想で自由に遊べるように環境を整えて見守るプレーリーダーが常駐しています。中には毎日のようにやって来る子もいて、とんかちを使って自分たちの秘密基地をつくってみたり、大人もひっかかるような落とし穴をつくってみたり、日々いろんな遊びを生み出しながら多くのことを感じ、学んでいます」（UDS コーディネイター 添田瑠璃）

大きな土山、手作りのロープブランコに、キウイ棚。その奥には小さな畑「こども農園」もあり、半年ごとに集まる「こども農園マスター」が季節ごとに練馬大根や、トマト、なすなどを育てています。

地域のベテラン農家 渡戸さんを先生に、畑の土作りから種蒔き、間引き、収穫、さらにご近所へのおすそ分けまで体験します。

「こども農園では、子どもたちが自主的に楽しみながら農業体験をすることで野菜や自然に興味や愛着を持つことを願っています。野菜を育てるには時間と手間がかかります。でもだからこそ、野菜が成長していく様子を見た感動や自分の野菜を守りたいという愛着が生まれますし収穫時の達成感もひとしおです。ここでの体験が、子どもたちがこれからの人生を生きていくための土壌や肥料となっていったら嬉しいです」（あそびっこネットワーク　佐々木康弘さん）

「自然の中で思い切り遊んだり、野菜を作ったりした体験が子どもたちの“原風景”になって、みどりを大切に思う大人になってほしい」そんな願いを込めた練馬区立こどもの森。今日も未来のまちをつくる子どもたちの元気な声が響いています。

1. キッザニア東京（2006年） 2. 藍天城EEcity（2010年 北京）

UDS株式会社 代表取締役社長
中川 敬文（なかがわ けいぶん）

1967年東京生まれ。
1999年株式会社都市デザインシステム（現UDS）入社。
2011年UDS株式会社 代表取締役社長就任。同職の傍ら高校生のキャリア教育支援を目的とするNPO法人LiKE! WORKを立ち上げ、高校や行政などで外部講師を務める。

まちと子ども

UDS 代表取締役社長　中川敬文

まちづくりを手がける私たち UDS は「まち」の最小単位の「家」を創るコーポラティブハウス事業からスタートしました。現在ではホテルや商業施設、公共施設の企画、設計、運営を行っていますが、練馬区立こどもの森や、コサイエのように、子ども向けの施設も手がけているのはユニークな特徴の一つです。

なぜ子ども？と思われるかもしれませんが「まち」の未来を考えることは、それはそこに住む人の未来、つまりは「子ども」の未来を考えることだと考えるからです。

UDSと子ども事業

UDS としての子どもへの関わりは、まさに私たちが大事にしている「エンドユーザー目線」の通り、自分自身の体験からスタートしています。

私は UDS に入社する前、新潟県上越市の商業施設内にあったスーパーの店長をやっていました。当時息子は4歳で、保育園から帰るとスーパーにやってきて商品の品出しを私と一緒に手伝い、夕ご飯の買い物をして帰る日々を過ごしていました。その後私は東京に戻ることになりUDS に入社したのですが、朝、出勤のたびに息子が「お父さんは今度は何屋さんになったの？」と聞いてくるのです。スーパーの店長時代は仕事の現場で働いている姿を見ていたので親が何をやっているのか子どもなりに分かっていたけれど、とたんにそれが見えなくなったんですね。結局、息子が納得する説明をすることが難しく、それがきっかけになって社員がオフィスに子どもや家族を連れてくる「オープンオフィス」を開催してもらいました。実際に私が働いている場所をみた子どもの満足した様子や喜んでいる顔が、とても印象的でした。

そんな経験もあり、子どもに仕事のことや働くことについて伝えていくことの大切さを意識するようになりました。その後、一人っ子の息子を持つ一人の親として、地域の子どもたちが繋がれる場があればとの想いで、2003 年から妻と練馬区の公園で出張プレーパークを開催していました。それがひとつのきっかけになり、日本初の子どもの職業体験施設「キッザニア」を手がけることになりました。UDS としては初めての子どもプロジェクトです。当時の UDS としてはかなり大きな金額を出資して筆頭株主になり、まちなみ・各パビリオンの設計から、スポンサー企業開発、関係者のコーディネイトを行いました。

このキッザニアの実績が、練馬区立こどもの森やコサイエなど、現在の子ども向けプロジェクトにつながっています。また、さらに中国にも広がりを見せ、2010 年には北京で子どものための社会教育・職業体験施設「藍天城 EEcity」プロジェクトを手がけました。中国の現地子会社 誉都思では現在同様のコンセプトの施設やショッピングモール内の子どもゾーンの企画なども手がけていて、中国でも子ども向けの施設施設が誉都思の強みの一つになっています。

まちづくりはひとづくり

まちづくりには施設や建物などハードの部分も重要ですが、ソフトな部分、つまりそこに暮らす「人」へのアプローチも大切です。「まちづくりは人づくり」と言われますが、自分らしくいきいきと生きる人が増えることはまちづくりの大切な要素です。

今、日本各地の多くの地域に共通する悩みの一つである「若者の流出」。地元に仕事がないことがその理由の大きな一つです。しかし社会に出る前から色々な人や仕事、考え方に触れ、新たな視点からまちを見て、自分の仕事やまちについて考える機会を持っていれば、自ら地域に新たなビジネスを産みだしそこで活躍する若い人たちが増えるはずです。

そこで「自分の仕事は、住むまちは、家族はどうあったらいいか」を子どもの頃から全体感を持って考えられることが大切だと考え、UDS の代表として高校生のキャリア教育にも携わっています。

一般的に「キャリア」=「仕事」というイメージが強いかもしれませんが、「キャリア」=「生涯」、つまりその人の人生という意味です。「キャリア教育」=「仕事を中心とした自分らしい生き方を考えること」という視点で、2014 年から成城学園高校で、2015 年から日野台高校でキャリア教育の講座を担当しています。そこでは UDS がやってきたこと、自身がベンチャー企業の経営者としてやってきたことなどを紹介しながら、高校生と一緒に未来のまちや仕事について考えるワークショップなどを実施しています。高校生のアウトプットは本当に豊かで、自分自身も発見や学びをもらっています。

私も UDS も教育の専門家ではありませんが、全ては「まちづくり」の目線でこうした機会に取り組んでいます。

これからのまちの未来を創っていく大きな可能性を秘めた子どもたち。これからもこの「子ども」への視線を大切に、UDS ならではのまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

Staff Interview

「まち」と「子ども」と「働く」

UDSにはママ目線で活躍する女性社員がたくさんいます。
子どもを持つ母親だからこその企画、設計、運営。それぞれの視点から話を聞きました。

中山幸恵
設計　1996年入社
6歳の男の子と4歳の女の子の母親

和田夏子
事業開発　2001年入社
8歳女の子と5歳の男の子の母親

原澤香織
企画　2015年入社
10ヶ月の女の子の母親

ー衣津子さんがUDS初のママ社員なんですよね？

鈴木：そうです。当時第一子を産んだ後で、UDSが社員を募集していたのを見つけて応募しました。
それまでもいくつかの企業に応募はしていたのですが、「残業はできません」と言うとどこも受からなかったんですが、UDSは「ママ社員求む」という求人で、時短勤務もOKということでした。

宮原：当時「ママ社員」を優先的に募集していましたもんね。UDSの基本は「エンドユーザー目線」なので企画にも設計にも運営にもママの視点が絶対に必要。だからUDSはママが活躍する会社でないといけない。と

比嘉：私は当時ホテルカンラ京都のフロントをやっていましたが、そのトレンドに乗って出産しました。笑

ーお子さまを育てながら活躍される皆さんですが、やはり仕事にも子どもを持つ母親の視点は生きていると感じますか？

中山：そうですね。子どもが小さな時には出かけた先でトイレにいくのも大変。そんな経験を経ると「これは子ども連れの家族にやさしい施設かな？」と考えるようになります。やはり子どもを出産して復帰してからは、設計の考え方や視点が以前よりも広がり、子どもやその家族のこともイメージし、細かい部分がより気になるようになりました。

和田：私は今、ホテルを始めとする様々な事業計画を担当しています。自分に小学校と保育園に通う２人の子どもがいるので、事業内容を検討する際に、

このスペースに学童を入れてみたらどうだろうとよく考えます。事業収支的に難しいことが多くなかなか実現は難しいのですが。

宮原：私は2人目の産休前には練馬区立こどもの森を担当していました。自分が子育てをする中で、公園デビューのハードルの高さだったりお母さんたちの悩みについての肌感覚があったので、企画をするときなど、その目線があってよかったと思う場面が何度もありましたね。

鈴木：私も子育て支援住宅の企画や、幼児教室や学童の企画をやらせてもらい、今も第2子の産休から復帰して子どもをメインターゲットとした施設の企画をやっていますが、やっぱり子育てをしているママ本人だからこその視点が生きていることが多いと思います。まさに採用の際に目的とされていた「ママのエンドユーザー目線」を大発揮しています。笑

宮原さくら
広報　2007年入社
4歳の男の子と3ヶ月の男の子の母親

鈴木衣津子
企画　2011年入社
6歳女の子と1歳の女の子の母親

比嘉朝香
運営　2008年入社
4歳の女の子と3歳男の子の母親

比嘉：私はちょっと個人的な話ですが、子どもを産んだら丸くなりました。これは自他共に認めるところで、以前は完璧主義。尖ったナイフのようだったと言われます（苦笑）。子どもがいると休まなくてはいけないことも増えるし、早く帰らなくてはいけないし、ある意味ちょっと弱い立場になるんですよね。そういう立場になると、いろんな立場の人がいることが分かって、それぞれの立場で物事を考えるようになりました。この点はホテルという仕事をしていく上ですごくよかったし必要だったと思っています。

ーなるほど。ではそんなママ目線を生かしてこれからこんなことをやってみたい、というのはありますか？

鈴木：ホテルって家具の角だったり床だったりベッドだったり、子連れにはひやひやするポイントが多いですよね。クライアントさんのベストを考えていくと与件や事業性とのバランスで子どもの企画には落とせないことも多いですが、いつか子どもと一緒に家族が楽しめることを一番のテーマにしたホテルをやってみたいですよね。ママチームで。

中山：いいですね。子どもは成長が早いし、年齢、性別、個性で本当に違うからどこに焦点を合わせていくのかが難しいですが、いろんな年次の、いろんな子どもを持つママ社員たちの意見やアイディアを合わせて、もっと活用していけるといいね。

宮原：UDSは機能の重ね合わせが得意な会社なので、複合的にいろんなものがあるホテルがいいなと思います。例えばホテルの一角に広々としたプレーパークがあって、旅行で来ている子どもと地元の子どもが一緒に遊んでいたりする。そんなホテルがあったらいいなぁと思います。

和田：複合用途のホテル、やりたいですね。保育園が入っていたり子どもが来れる場所があって色んな人たちがいる場所。もともと公共の場所だと人が集まりやすいと思うので、例えば廃校になった小学校を活用して、そんな複合用途のホテルをやれたらいいですね。

中山：あと、私は子どもにはいろんな年代の人と接する機会をつくってあげたいと思っているので、老若男女が集まって、どんな年齢の人も楽しめて居心地がいい場所を作りたいですね。そんな想いを込めて、私はパースにいつもさりげなく子どもを忍ばせたりしています。笑

原澤：私はいま育休から復帰したばかりなのですが、子どもがいる生活は勉強になることも多いですしとても楽しいです。実際に子どもを連れて出かけたりすると困ることも多々あって、ユーザー側が問題に感じることがよく分かるようになったので、それを企画にきちんと落とし込んでいけるようになりたいですね。ハードもソフトも含めて地域みんなで子育てしていく、みたいな仕組みが考えられたら、子どもを産みたい・育てたいと思っている人の背中を押すことができるのかな、と思っています。

中山：働く会社員の目線で考えると、ママが働きやすい会社がもっと増えて、働くママが増えたらいいなと思います。短時間でも成果を出して会社に貢献する意識をもっとママたちが持って、会社から必要とされれば、気がひけることもないし、周りの方に理解にしてもらえる。そういう雰囲気をUDSは実践している会社だと思います。

「女性はもちろん特に男性が私たちの環境を理解して、とても優しく対応してくれることにいつも本当に感謝しています」という言葉を始め、その他も周りの仲間や家族に感謝する言葉が座談会の節々で聞かれました。この「感謝」の姿勢もUDSでママ社員が活躍している理由の一つなのかもしれません。

Hotel Project

ホテル・アンドルームス大阪本町

Essence of Culture -日本らしさの再解釈

UDSが企画・設計・プロジェクトマネジメントを手がけたホテル・アンドルームス大阪本町が、2017年4月27日にグランドオープンしました。

オフィスビルからホテルへのコンバージョンにより誕生した同ホテルは「Essence of Culture -日本らしさの再解釈」をコンセプトにしています。日本の伝統的なモチーフや素材、設えをエッセンスに、シンプルで時代に左右されない上品さと、余白を生かした可変性のあるデザインとし、日本人が大事にしてきた居心地の良い空間のあり方を、増加する訪日外国人客にも楽しんでいただけるホテルを目指しました。

客室は全103室。既存構造を最大限に活用しながら、1名で利用可能なダブルルームからソファベッドを利用して最大5名まで利用できるデラックスツインルームまで、さまざまなタイプの客室を設けています。和洋室タイプは小上がりを設けることで日本らしい和の佇まいに。木の質感を生かしたオリジナル家具をはじめ、随所に木を取り入れることで本物の素材感を加えています。

所在地：大阪府大阪市西区靭本町1丁目7番7号
構造：鉄骨鉄筋コンクリート造
敷地面積：594.92 ㎡
延床面積：3,393.35 ㎡
オープン：2017年4月27日
http://www.hotel-androoms.com

Project Member

高橋佑策

小田島康朗

田代昌史
（外部パートナー）

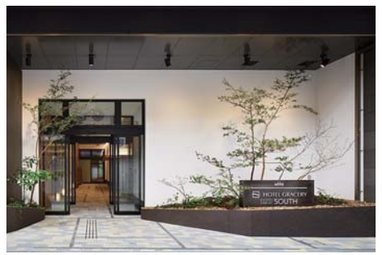
ホテルグレイスリー京都三条 南館

京都を体感するホテル

2016年7月に開業した北館に続き、2017年5月1日にオープンしたホテルグレイスリー京都三条南館のデザイン監修をUDSが担当しました。

目指したのは、京都独特の文化や芸術、伝統工芸のアイデンティティーを埋め込んだ京都らしさを体感できるホテル。
細い路地が複雑に入り組み、路地には町家や中庭等が接している京都のまちの特徴的な様式を、建物のエントランスや廊下、客室にデザインモチーフとして取り込むことで、京都らしさを表現しました。また、格子、庭、枯山水、石畳、西陣織、清水焼といった京都の文化やアートの要素を丁寧に抽出し、ホテルのさまざまな部分に効果的に落とし込むことでも京都らしさの表現にアプローチしています。

客室デザインはモダンな京都らしさを追及。和風家具、床の間、違い棚といった日本の伝統様式にさまざまな素材を組み合わせることで新しい京都らしさを表現しました。



所在地：京都府京都市中京区六角通寺町東入桜之町420番
構造：鉄骨造地上9階
敷地面積：858.82㎡
延床面積：4267.98㎡
オープン：2017年5月1日
http://gracery.com/kyoto/

Project Member

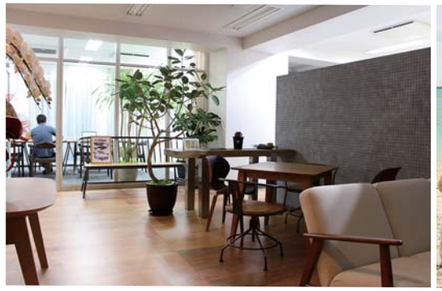
中原典人

岡部 泉
（外部パートナー）

はいさい 沖縄UDS

2016年10月にUDSの100%子会社沖縄UDSが誕生しました。
沖縄各地でホテル・リゾート施設等の企画、設計、運営事業を展開していく
沖縄UDSの様子をご紹介します。

※**はいさい**　沖縄方言で「こんにちは」の意味。女性の場合は「はいたい」といいます。



沖縄UDSオフィスは那覇空港からほど近い牧志沖映通りにあります。もともと一般的なオフィス仕様だったフロアを、ミーティングエリアと執務エリアの2区画に分けて改装しました。
広いテラスもあり、明るく居心地のよい空間です。

沖縄UDS社員は現在10名。沖縄へUターン移住した社員をはじめ、沖縄にゆかりがある沖縄好きなメンバーが集まっています。東京から沖縄に一時拠点を移したり、東京とを行き来する設計メンバーと一緒に、企画、設計、運営メンバーが一体となったプロジェクトチームで、ホテルのコンセプトやプラン、コンテンツなどの検討を進めています。

そんな中、5月末の週末には宮古島下里で建設中のホテル目の前の漁協組合主催のハーリー競漕に沖縄UDSチームで参加しました。ハーリー（海神祭）は旧暦5月4日に、宮古島の各漁港で1年間の航海安全と豊漁を祈願して開催される伝統行事です。「爬竜船」と言われる沖縄の伝統的な小型漁船に、漕ぎ手、舵取り、鉦打ち合わせて11名が乗船し速さを競います。未経験のメンバーで急遽結成されたチームでしたが、ボート部出身の梶原の論理的な指導と指揮により、30組中3位に入賞しました！

これからも地域のみなさんとの交流を深めながら、まちに溶け込み地域の魅力を伝えるホテル開業に向けて取組んでいきます。

沖縄UDS株式会社
沖縄県那覇市牧志 2-16-8
BIT PLAZAビル3F
TEL： 098.894.8655
HP： http://www.okinawa-uds.co.jp

Hello from 誉都思（ユードゥースー）

UDSでは、まちづくりやホテルでの実績を生かし、2006年より中国で事業を行っています。
2011年には創業者であり、代表取締役会長の梶原文生が家族で中国・上海に移住。
2013年に現地法人誉都思（ユードゥースー）を設立し、日本同様のモデルで、企画・設計・運営の事業を展開しています。

北京 Beijing

濱岸健一
Kenichi Hamagishi

2010年12月中途入社。30歳に転職を考えていた時に、「社会に意義のある事を、かっこよくデザインして、しっかり儲ける」ということをダイレクトに実践しているUDSに魅力を感じ、また海外（中国）での積極展開を考えているという会社方針にも共感し、当時の設計部に入社しました。2011年、中国現地法人の立ち上げを機に、誉都思へ移籍。誉都思では、設計から運営へと大きな職種変更を経験しましたが、現在はホテル・飲食事業の運営マネジメント業務の面白さを実感し、中国のスタッフたちと充実した日々を送っています。

MUJI HOTEL現場にて

現在、北京、上海、蘇州にもオフィスができ、日本と同じように企画・設計・運営のスタッフが一緒になって働いています。現在は、企画・設計メンバーが32名、運営メンバーが12名の合計44名の規模となっており、今後MUJI HOTEL北京が開業するとさらにスタッフが増える見込みです。

Project

藍天城EEcity

藍天城は、未来を創る子どもたちを応援する、子どものための社会教育・職業体験施設として、キッザニアのノウハウのあるUDSが、2011年に中国北京市で一号店を完成させました。企画・設計・運営・経営から人材教育・スポンサー開発、VI等、トータルにコーディネイトすることにより、デザインだけにとどまらない完成度の高い施設となりました。現在、遼寧省の**盘锦**、甘粛省の蘭州でも藍天城の設計業務プロジェクトが進行中。ストーリー性と教育性を軸に“体験”をテーマとしたファミリーレジャー複合施設を目指します。

上海 Shanghai

中嶋麻衣
Mai Nakajima

2015年入社。名古屋の設計事務所で4年間働いた後、アジアで働くことを視野に考えていたときに誉都思を知り、企画・運営まで携わり、人と人を繋ぐ場所を作る仕事に魅力を感じ、入社しました。企画・設計・運営のすべての段階に身を置き、トータルで事業に関わること、チームワークの大切さを感じながら奮闘する毎日です。設計では家具から装飾まで総合的にプロデュースできる内装設計に面白さを感じ、細かい部分まで全体をコーディネートできる力をつけるべく、最新デザイン情報を求めて上海の街を巡る日々を過ごしています。

上海オフィス

2016年9月に新オフィスに引っ越しました。上海にある洋館のような建物に、少しずつ内装、装飾の手を加えています。庭を中心に緑を増やし、快適なオフィスづくりが進んでいます。現在、中国と日本の両方での販売を意識した家具や、お客様からご依頼を受けた椅子などの受注も増えてきており、その点も意識した空間になりつつあります。

Project

蘇州温浴施設プロジェクト

中国の古都である蘇州の中心部から車で30分ほど、上海、蘇州周辺の一大観光地である陽澄湖に出っ張るような形の半島に位置します。ホテル、和食レストラン、人工温泉、岩盤浴、マッサージ等を含んだ延べ床10,000平米程度で、湖の景色を楽しみながら一日中ご滞在いただける施設です。中国ではほとんどの温浴施設が大衆向けな中、スパリゾートを意識した温浴施設として、施設、運営ともに差別化を図る予定です。空間は、和の要素を取り入れた現代的なシンプルさでまとめ、照明などを利用して落ち着いたリラックスできる空間を目指しています。

UDS NEW OFFICE

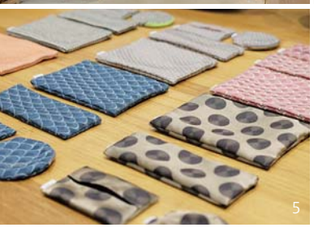
～原宿の新オフィスに引っ越しました～

UDSでは2017年3月に、代々木から原宿へオフィスの引っ越しをしました。新オフィスは原宿駅竹下口から徒歩3分ほどの小道に面したところにあります。

「引っ越しが決まってから理想の場所を探し、数十件の物件を役員で見て回りました。なかなか納得いく場所がなく、このまま決まらないんじゃないか、とも思ったこともありましたが、最終的に、小さいながらも一棟の建物でここならUDSらしいオフィスができるんじゃないかということで今の物件に決定しました」（新オフィスプロジェクトチーム 事業企画 黒田哲二）

「新オフィスのためのワークショップでみんなから出たキーワードを踏まえて、どうデザインしたら働きやすく、コミュニケーションが生まれ、新しい発想が生まれる場所になるかをチームで話し合いながら何度もプランを練り直しました。実は2階のオフィスフロアの床面積は以前のオフィスとほぼ変わりません。その限られたスペースを少しでも広く、快適に感じられるよう、デスクスペースとの仕切りを本棚にしたり、入り口の突き当たりの壁に鏡を貼ることで広く見せたりするといった工夫をしています」（新オフィスプロジェクトチーム COMPATH 蛯原弘貴）

外観。地下1階地上2階のビルの1階と2階がUDS



1. 2F オフィスフロアの様子

2. ショップ「su＋」併設の「リラックス食堂HARAJUKU」。奥は打ち合わせスペース

3. 2階オフィスフロア。左手がフリーアドレスのデスクエリア、右側に社内打ち合わせエリア

4. ある日のリラックス食堂の日替わり定食

5. ショップ「su＋」のオリジナルポーチ

1階は誰でもウェルカムな、まちにひらかれた社員食堂「リラックス食堂HARAJUKU」になっています。コーヒーなどのソフトドリンクと手作りのおやつ、4種類のお昼ごはんをどなたにも召し上がっていただけます。

「栄養バランスのとれた、手作りでホッとリラックスできるお昼ごはんをご用意しています。どなたにもお気軽にお立ち寄りいただけたら嬉しいです」（リラックス食堂HARAJUKU店長 管理栄養士 清水麻美）

食堂には、企画・設計部隊のCOMPATH（コンパス）事業部が立ち上げた新プロジェクト「su＋」のオリジナルアイテムを実際に見て、触れて、購入することができるショップ「su＋」が併設されています。
「su+のsuは素材の素。素材にデザインやアイディアでUDSならではの編集を加える。建物という素材に建材や家具、備品をプラスした新たな空間を提案する。という意味を込めています。家具製作の途中で出る端切れを使ったポーチなど、ここにしかない商品をぜひ手にとって見てみてください」（COMPATH su＋チーム 菓子麻奈美）

誰でもウェルカムな私たちの新しいオフィス。ぜひ遊びにいらしてください。お待ちしています。

UDS Office
東京都渋谷区神宮前1-19-19

リラックス食堂HARAJUKU & ショップ su+
営業時間：平日 9:00-18:00（ランチタイム 11:30 -14:30）
HP：http://relaxshokudo.com/harajuku/

新オフィスプロジェクトメンバー

事業企画部 / 黒田哲二
COMPATH / 中原典人　蛯原弘貴　菓子麻奈美　塚本加世子　谷口千春
リラックスデザイン部 / 黒川桃子　林綾子　清水麻美

Inside UDS

UDSの裏側やちょっとしたニュースなどをお届けします

December

滋賀県の魅力を伝える情報発信拠点「ここ滋賀」を10月29日にオープン

滋賀県が新たに展開する首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」の企画・内装設計・運営業務をUDSが受託しました。1階のショップ、観光案内、ツアー造成、2階のレストラン、さらに多岐に渡るイベントを通して、琵琶湖をはじめとする豊かな自然、歴史、食文化、近江商人などの滋賀県の魅力を発信していきます。10月29日のオープンに向け、メンバーが滋賀と東京を行き来しながら企画、設計、開業準備を進めています。

January

INBOUND LEAGUE を10月に開業します

インバウンド事業者のためのコワーキングスペース「INBOUND LEAGUE」を2017年10月に開業することを発表しました。インバウンド事業向けサービスを国内でいち早く手がけてきた株式会社やまとごころをパートナーに迎え、インバウンドを通した企業や地域の活性支援を目指します。2月に開催したキックオフイベントは100名以上の申し込みがあり急遽追加開催を決定するなど、インバウンドへの注目の高さを示す滑り出しとなりました。

February

パーソナルツアーがスタート

国内外の様々な場を実際に訪れ、自らの五感で感じ取ることで仕事に生かすインプットを得ることを目的にした社内制度「パーソナルツアー」が立ち上がりました。社員の希望地視察の際の一部費用を会社がをサポートする仕組みです。早速3月には教育からおこす地域活性化を目指し「コサイエ」で働く山崎未玖が、最先端の教育を学びにデンマークを訪れました。

April

UDS2誌目の食べる通信「滋賀食べる通信」創刊

京都食べる通信に続き、滋賀食べる通信もUDSが発行者となって創刊することが決まりました。滋賀県の首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」と連動した、滋賀の魅力を伝えていく取り組みです。「醸す：発酵」をテーマに、鮒ずしに代表される滋賀県で脈々と受け継がれてきた発酵食文化を、作り手の仕事ぶりを通して紹介します。2017年10月に第1号を発行します。

April

空間に新しい価値を生み出すsu＋プロジェクトスタート

「自分たちが欲しい明日をつくる」をミッションに掲げるUDSの企画・設計部隊、COMPATH（コンパス）事業部が新たなプロジェクト「su＋」を立ち上げました。UDSの「編集」をプラスした素材やプロダクトの提案を通して、空間に新しい価値を提供します。オリジナルアイテムを含む商品はUDSオフィス1階のショップ「su＋」で販売中です。

April

新卒社員9名が仲間入り

この春もフレッシュな新卒社員を迎え入れました。新卒といえど、企画から設計、さらに運営まで自社で手がけるUDSでは歳もバックグラウンドも多様です。9名の2017年新卒社員はホテルやリラックス食堂での拠点研修を含む1ヶ月の研修を経て、企画、設計、運営、それぞれの部署での実務がスタートしました。

Message from UDS Acters

UDSでは運営を手掛ける各拠点のスタッフを
Act(行動)する人と言う意味でActer(アクター)と呼んでいます。
全国各地からのActerの声をお届けします。

開放的なテラスで
クラフトビールと自慢の
旬菜料理をどうぞ!

from
小石川テラス
Tokyo / Restaurant
キッチン
小林 日吉

1階ロビーは気軽に立ち寄れる
開放的な空間です。
フォトジェニックに過ごして下さい!!

from
ホテル エディット 横濱
Kanagawa / Hotel
支配人
前田 健吾

ビジネスから旅行まで、
様々なシーンでご利用いただけます。
全ての人が安心してくつろげる空間を提供します。

from
GRIDS 秋葉原
Tokyo / Hostel
アルバイトアクター
鬼形 和馬

7月からビール×生演奏、
DJイベントを開催予定です!

from
NODE UEHARA
Tokyo / Cafe & Restaurant
キッチン
馬橋 明恵

今年の夏はPUBLIEの
“肉盛りビアガーデン”で満腹&満足!!

from
PUBLIE
Kanagawa /Cafe & BBQ Diner
アルバイトアクター
加藤 亜胡

1周年を迎え、1Fに
STREAMER COFFEE COMPANYが
オープンしました。
新しいイベントを次々企画中です!

from
GRIDS 日本橋イースト
Tokyo / Hostel
アルバイトアクター
仲川 真美

世界中のゲストをお迎えし、
笑顔の絶えない毎日です!
居酒屋ブンカでは季節に合わせた
日本酒もお楽しみいただけます。

from
BUNKA HOSTEL TOKYO
Tokyo / Hostel
フロント
長島 めぐみ

月に1度、料理教室を実施。
学生さんからのリクエストをもとにした
メニューを提供しています!

from
リラックス食堂 広島
Hiroshima / 学生食堂
調理長
亀ノ上 孝志

リラックス食堂大阪の
インスタグラムを
日々アップしています!

from
リラックス食堂 大阪
Osaka / 学生食堂
アルバイト
赤木 優花

ディープな日本の
面白い川崎を盛り上げています!

from
オン ザ マークス 川崎
Kanagawa / Hotel & Hostel
フロント
ボニック ルーカス

夏休み特別集中講座や
秋季コース説明会、続々開催します!

from
コサイエ
Kanagawa / After School
マネージャー
三上 浩紀

陸上アスリート経験を活かし、
食事と笑顔でサポートしています!

from
リラックス食堂 滋賀
Shiga / 学生食堂
栄養士
藤原 加世

栄養士監修のメニューを
心を込めてお届けしています。

from
リラックス食堂 仙台
Sendai / 学生食堂
調理
保坂 奈緒

まもなく3周年!
今年は地域の遊休資源である
「竹」をテーマに市民の皆さんと
まちづくりを行っていきます!

from
薩摩川内市スマートハウス
Kagoshima / Smart House
コーディネイター
田尾 友輔

「PROJECT DESIGN LABO
企画の立て方ナレッジシェア」
実践的な企画力を学ぶ
6回シリーズの講座を開催中です!

from
LEAGUE 銀座
Tokyo / Coworking Space
コーディネイター
田中 沙耶

様々なシーンで訪れるすべての方に
「カンラ」で過ごす時間のお手伝いを。

from
ホテル カンラ 京都
TKyoto / Hotel
カンラ ラウンジ 店長
内田 雅之

大人気の朝食。
展示の度に雰囲気を変えるギャラリー。
心安らぐBAR。オススメ満載です!

from
ホテル アンテルーム 京都
Kyoto / Hotel
フロント
山路 卓

食×農分野で活躍するプレイヤーと
一緒にFARMERS LABO(講座)開催中。
受講生募集中です!

from
LEAGUE 有楽町
Tokyo / Coworking Space
コーディネイター
大竹 萌

緑の中で冒険遊びが出来るプレーパーク。
夏は色んな自然遊びが楽しめます!

from
練馬区立こどもの森 (JV PLAY TANK として受諾)
Tokyo / 公園
パークマネージャー
添田 瑠璃